

〔 福岡市国家戦略特別区域会議（第3回）資料
（医療関連を抜粋） 〕

1. 福岡市国家戦略特別区域計画（案）【資料1】 …… 1
2. 福岡市提出資料【資料4より抜粋】 …………… 2
3. 福岡市立病院機構提出資料【資料5】 …………… 5

区域計画の変更内容（案）

2 法第2条第2項に規定する特定事業の名称及び内容

(2) 名称：国家戦略特別区域高度医療提供事業

内容：病床規制に係る医療法の特例

(国家戦略特別区域法第14条に規定する国家戦略特別区域高度医療提供事業)

地方独立行政法人福岡市立病院機構が、福岡市立こども病院（福岡市）において、高度な技術と経験を要する双胎間輸血症候群（TTTS）における胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術（FLP）による治療の実施及びその周産期管理を行うため、新たに病床6床を整備する。【平成27年度中に実施】

3 区域計画の実施が国家戦略特別区域に及ぼす経済的社会的効果

区域計画の実施により、MICEの誘致等を通じたイノベーションの推進及び新たなビジネス等の創出が促されるとともに、高度医療の提供による都市の魅力向上を通じて、福岡市における産業の国際競争力の強化及び国際的な経済活動拠点の形成に相当程度寄与する。

福岡市 グローバル創業・雇用創出特区

資料4

「人と環境と都市活力の調和がとれた
アジアのリーダー都市」を目指して



2015年3月25日

福岡市長 高島 宗一郎



医療水準の向上

<特区の活用>

● 病床規制の特例

双胎間輸血症候群に対する先進的医療の提供

● 外国医師の診察解禁

※全国での規制改革
(平成26年10月1日)

外国医師による先駆的な治療法を国内
および海外医療機関へ情報発信



福岡市立こども病院



九州大学病院

外国人向け 医療環境の整備

<市の事業>

● 医療に関するワンストップサービス

福岡県と共同し、外国人向け医療相談、電話通訳・医療通訳派遣に対応
するコールセンターを設置

グローバル人材が住みやすい、暮らしやすい都市機能を実現

外国医師の診療に係る規制緩和について

福岡市の提案

外国医師の診察解禁を拡大 (臨床教授等制度の対象病院を拡大)

規制

外国医師が診療を伴う臨床研究を行える病院はごく一部に限定

特区内において、安全かつ適切に治験を行うことと要件に、臨床教授等対象病院を拡大



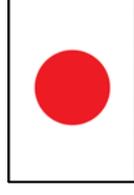
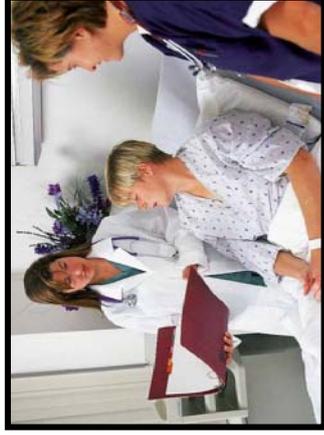
デング熱



アルツハイマー症

新型インフルエンザ

SARS



世界市場を視野に開発

日本は治験環境整備が途上
欧米に比べ治験着手に遅れ
⇒ 医薬品の開発に遅れ

規制改革

外国医師と共同した多民族に対する精密な治験の実施を、日本国内で可能にする
ことで、製薬企業が、国内で早期に治験に着手することを支援する

国際競争力のUP

- ・治験環境改善
- ・効率的な創薬
- ・開発費の圧縮
- ・新薬の早期承認

福岡市立こども病院における 国家戦略特別区域 高度医療提供事業について

病床規制に係る医療法の特例による病床の増床

平成27年3月25日
地方独立行政法人福岡市立病院機構 理事長 竹中 賢治

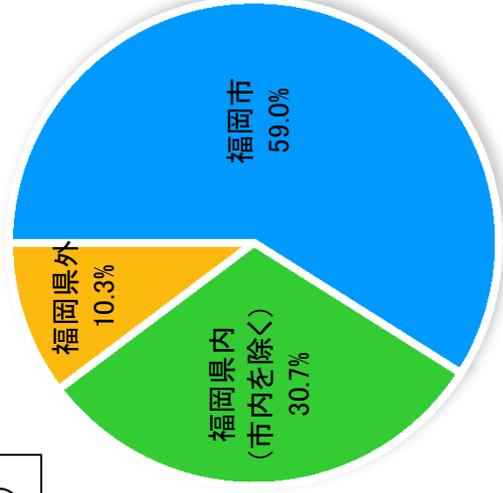
1. 福岡市立こども病院について



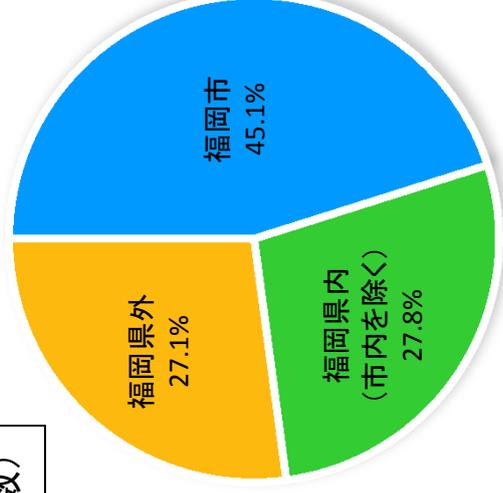
- 西日本で唯一の小児の高度専門医療機関
- 先天性心臓病の手術では国内有数の実績
- 九州・西日本一円から広く患者を受け入れ
- 病床数233床、手術室7室

[地区別患者数(平成26年11月～平成27年2月)]

外来(延患者数)



入院(延患者数)



2. 福岡市立こども病院における取り組み

双胎間輸血症候群(TTTS)における胎児鏡下胎盤
吻合血管レーザー凝固術(FLP)による治療の実施
及びその周産期管理

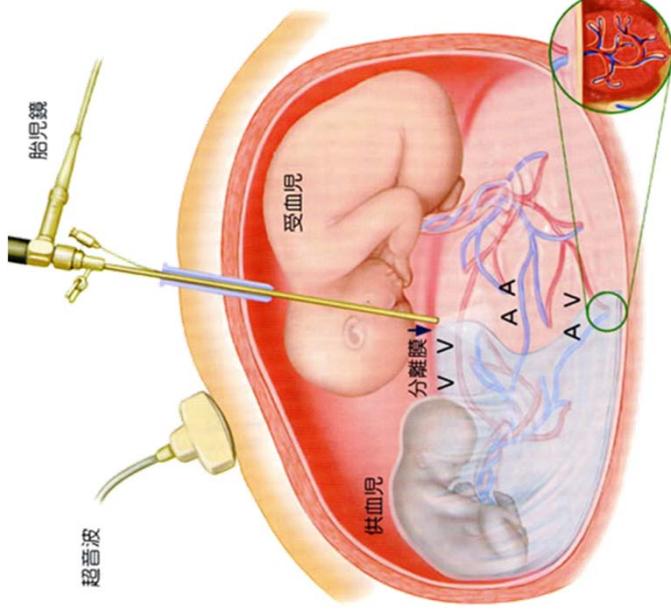
福岡市立こども病院
平成26年11月 新築・移転

- 新たな医療機器の整備
- 人材の確保
(技術及び一定症例数の経験が必要)

- 
- FLPの届出施設がなかった九州において治療を実施する体制が整う
 - 臨床試験が進められているTTTS関連疾患に対するFLP治療の応用についても対応予定

3. 双胎間輸血症候群(TTTS)について

双胎に起こる特殊な病気で、ひとつの胎盤内で血管のつながり(吻合血管)があり、双胎間に慢性的な血流のアンバランス(不均衡)が生じることで発症



供血児

：血液を送り出している胎児

- 貧血
- 低血圧
- 乏尿
- 羊水過少
- 循環不全
- 発育不全
- 腎不全
- 胎児死亡

受血児

：血液を余分にもらう胎児

- 多血
- 高血圧
- 多尿
- 羊水過多
- 循環負荷
- 心不全
- 胎児水腫
- 胎児死亡

- どちらか一人の児の病気ではなく、両胎児とも状態が悪くなるのが特徴
- 無治療ではどちらの胎児とも救命が困難
- TTTSは全分娩の0.03%、TTTS関連疾患(一児発育不全等)もほぼ同数程度発生

4. 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術(FLP)について

- ▶ レーザーにより、吻合血管を焼灼することで、血流のアンバランスを取り除く根本治療で、今世紀に入り日本で導入された新しい治療法
- ▶ 対症療法である従来の羊水除去術と比べ、生存率、神経学的後遺症ともに大きく改善されており、日本の治療成績は、FLP治療先進国と比較しても遜色ない



当院におけるFLP治療の様子



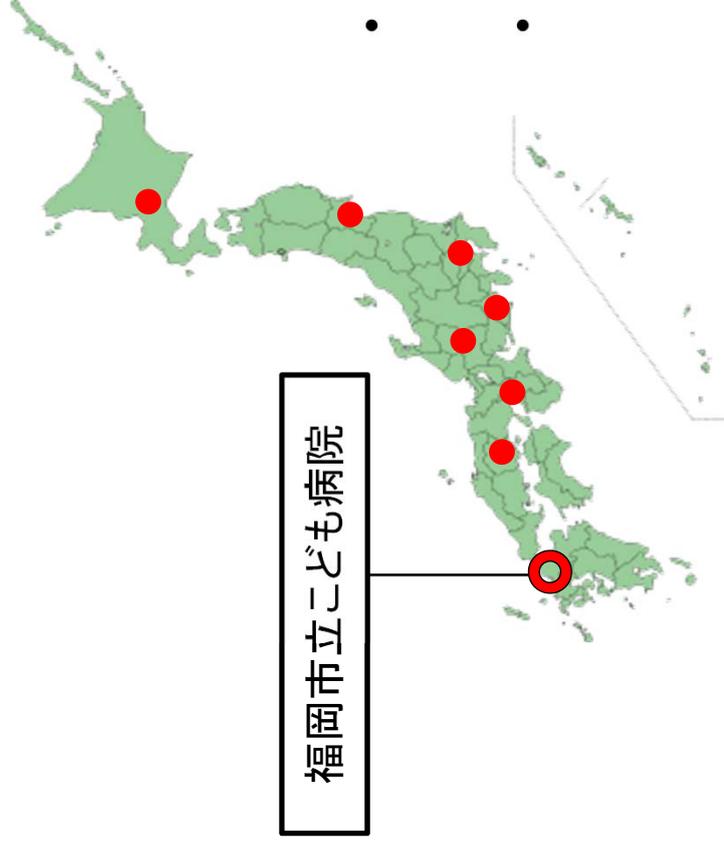
凝固前



凝固後

- 胎児鏡を使っでの胎盤表面で繋がった血管の同定、術前術後の周産期管理など、高度な技術と経験が必要
- 発生確率から想定される患者数に比べると、普及は不十分

5. 国内におけるFLP治療の普及と実施における課題



- 国内では福岡市立こども病院を含めて8施設のみ限定して年間150例程度実施
- 九州においては福岡市立こども病院のみ

福岡・糸島二次医療圏にとどまらず、九州・西日本一帯を含む極めて広域的な対応が必要

6. 福岡市立こども病院におけるFLPの実施について

福岡市立こども病院でFLP治療を実施することにより

- 市域や県域・九州を越え、近隣の国外患者を含め、より多くの患者に対して有効な治療を行うことが可能
- 生存率の上昇や神経学的後遺症の減少など医療水準の向上に寄与

九州内での発生症例数から母体管理、胎児治療並びに分娩時及び出生後の周産期管理のための病床として、6床の増床が必要



福岡市立こども病院 基本理念

すべてのこども達やご家族の健康と明るい未来を願い、時代にふさわしい病院を目指します。